

【全体概要】

兵庫県但馬地域のピーマンは、平成28年現在、約12haの栽培面積があり、特に山間部で生産者が増えているが、定植時の低温により初期生育が悪く、また秋以降の樹勢の衰えにより、1本あたり収量が伸び悩んでいる。そこで、特別栽培に対応した栽培技術体系を確立し、生産、流通が連携し、更なる夏秋ピーマンの生産振興を図る。

新品種・新技術等の概要

品種「京ひかり」：開発者：タキイ種苗(2005年)

技術①ヘソディムにもとづいた土壤病害対策【開発者：(独)農業環境技術研究所】

概要：ほ場の診断結果を基に予防的土壤病害対策を実施する。

技術②日射制御型拍動灌水装置での有機質液肥利用による化学肥料の削減【開発者：農研機構近中四農研センター】

概要：ソーラーパネルを利用し日射量に応じて灌水と有機液肥の施肥を同時に行うことにより、省力化・高品質化を図る。

技術③静電噴口による農薬散布【開発者：有光工業(株)】

概要：帯電噴霧で作物の茂みや葉裏への農薬付着率を向上させ防除効果を高める。

技術④土壤伝染性病害抵抗性の新しい台木活用【開発者：農研機構野菜茶業研究所(台パワーZ)、横浜植木(株)(タッグマッチ)】

概要：青枯病・疫病複合抵抗性台木の導入により生産の安定化を図る。

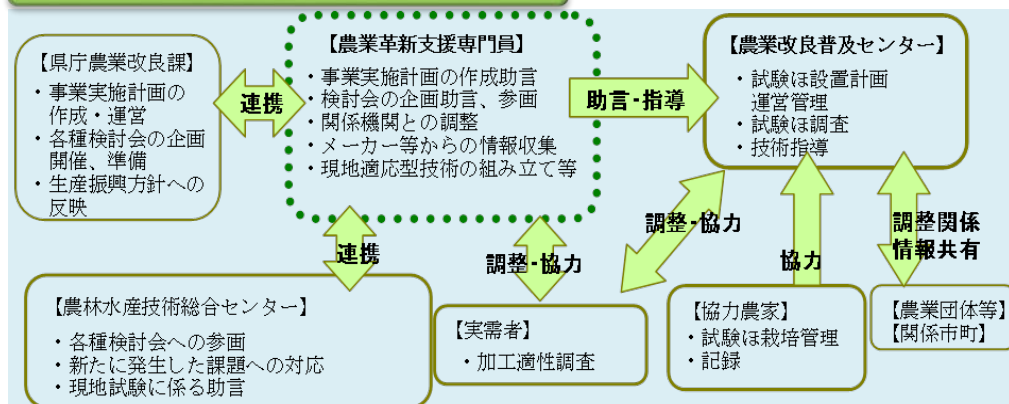


主な取組内容

県内3ヶ所で実証ほを設置し、技術的なポイントを検証した。また、実需者であるピーマン加工業者や量販店との意見交換会により、求められる品質や需要動向について調査した。



コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

化学肥料低減技術として有機質液肥の導入について検討したが、タンク内に成分が沈殿し均一施肥に支障をきたした。また、化学合成農薬低減技術として、クロピクテープと静電噴口についても試験を行ない効果を確認することができた。一方、台木は、青枯病・疫病ともに発病抑制効果があったが、生育が遅く、高値で販売できる7月の収量が低くなった(11月まで収穫できるので収量に問題なし)。

今後は、より安価なクロルピクリン錠剤の利用や生育の早い実生と病害抵抗性台木を組み合わせた栽培体系を検討し、経営的にも安定した特別栽培生産方式の確立を目指す。

※兵庫県但馬地域産ピーマン H30年産12.3ha

